

A 重点実践事項に基づいた評価

令和元年度12月

重点実践事項	評価項目	評価 ( )は1回
1 高い使命感・職責感をもち、全職員の協働とアイデアで目指す姿を実現する。	(1) 児童生徒数の減少に伴い、小学部・中学部の枠を取り払った学習活動の進め方を検討・整理しているか。	3. 3 (3. 1)
	(2) 校務の内容を整理し、分掌組織の統合案に向けて検討を進めているか。	2. 9 (3. 0)
	(3) 次年度以降の学校行事（運動会、学習発表会）の在り方を検討し、具体的な計画の立案に向けて準備を進めているか。	2. 9 (2. 8)
2 児童生徒の実態と新学習指導要領に基づいた教育課程と個別の指導計画により授業を充実する。	(1) 各指導の形態の年間指導計画にある学習内容を新学習指導要領の各教科の内容と照らし合わせ、学習内容の充足を図っているか。	2. 8 (2. 9)
	(2) 見て分かる教材の開発をし、教材・教具庫（棚）を整理し、作成した教材・教具について保管及び共有できるようにしているか。また、学校掲示板にアップし、校内に知らせているか。	2. 9 (2. 8)
	(3) 個別の指導計画を指導の形態ごとの目標ではなく、各教科の目標を明記できるような様式を検討しているか。	3. 0 (2. 5)
3 保護者・やまびこ、諸関係機関との連携をしながら更なる支援体制を充実する。	(1) やまびこ医療福祉センター担当看護師やリハ部等との情報交換会を計画実施しているか。	3. 6 (3. 6)
	(2) 保護者授業参観週間を学期一回ずつ設定しているか。	3. 1 (3. 0)
4 保健衛生、安全管理、合理的配慮を充実した安心・安全な学校環境づくりを行う。	(1) 各教室のユニバーサルデザインによる教室環境（掲示、動線、各棚など）づくりをしているか。	2. 9 (3. 0)
	(2) 大学等と連携し、重度重複障害教育におけるコミュニケーション力の向上に関する研究及び実践を行っているか。	2. 7 (2. 3)
5 積極的な情報収集・発信に努め、センター的機能を充実する。	(1) 学校ブログの活用を促進、学期ごとに教育活動の様子に限定した一人1ブログを実践しているか。	2. 7 (2. 3)
	(2) 巡回相談等について、鹿児島市教育委員会と連携しながら事例検討型相談内容にしていくための具体的な計画づくりを進めているか。	2. 7 (2. 6)
	(3) 地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校のコーディネーターを対象に事例検討会を実施するための計画や準備を行っているか。	2. 5 (2. 5)

※ 評価【4：十分達成できている，3：おおむね達成できている，2：やや不十分である，1：不十分である】

<まとめとして>

- 全体的に「おおむね達成できている」に満たない結果が多く見られる。
  - ・ 評価項目に関する平均値は低い結果となっていたが、各分掌や係ごとに、前年度までの課題に基づいた目標及び努力点を適切に設定し、具体的な年間計画等に沿って滞りなく実践されていたと感じる。更なる改善を目指して新たに重点的に取り組む必要がある項目については、係と相談しながら役割を明確にし、年間計画に位置付けるようにすればスムーズに実践化が図られるのではないかと考える。
- 全体的に1回目の評価結果を受けての改善につながる取組がそれほど見られなかった。
  - ・ 関係する係等で検討したが、1学期の評価結果後では取組が間に合わなかったり、異なる意見により今年度の実践を見送ると決めた係があったり、項目どおりに取り組むことが難しかったりする様子が見られた。また、どの係が中心となって実施すべきなのかに迷い、投げかけが難しかった項目等もあった。
- 評価のばらつきが大きい項目が多く見られた。
  - ・ 平均値だけでなく、別紙で示した自由記述欄の多くの意見と併せて分析し、次年度以降の計画及び実践につなげる必要がある。
- 実践事項1の(1)「小・中学部の枠を取り払った学習活動」に関する項目は比較的ポイントが高い。
  - ・ 音楽や体育を合同で実施したり、生単も内容によって合同で学習する機会を増やしたり、週1回合同朝の会を実施したりしたことが評価につながっていると考える。今後も合同での学習を行いやすくするような時間割や指導体制、学部運営等、仕組みを整えていくことが大切であると考え。一方で、実態に応じた学習活動となっているかを吟味しながら、成果と課題についても整理し、合同学習のよさを生かしつつ、課題の改善や個別指導での補充を随時行っていくとともに、9年間を見据えた教育計画づくりを進めていく必要がある。
- 実践事項2の(3)「個別の指導計画の様式」については、ポイントが大きく上がっている。
  - ・ 教育課程に関する研修やテーマ研修、研究授業等を通して方向性を探ってきたことや、指導要録の書式の変更にもない各教科の目標及び内容を意識した取組を求められていることについて共通認識されたことが評価につながったと考える。児童生徒のよりよい学習につながる、活用しやすい様式について引き続き検討が必要である。
- 実践事項3の(1)「やまびこことの情報交換」に関する項目はポイントが高い。
  - ・ この項目は、本校にとって必要不可欠な実践項目であり、その重要性を全職員が十分に認識した上で計画がなされ、実践していることが評価にも表れていると考える。また、本校の児童生徒が利用している他の関係機関とも担任を中心に連携が図られている。今後も取組を疎かにすることなく、よりよい連携の在り方を探っていきたい。

## B 皆与志養護学校をもっとよくするために・・・

皆与志養護学校をもっとよくしていくために、下記の項目について、課題や改善点等をお書きください。

### 1 校務分掌の各部へ

- ◇ 校務分掌の各部に対して、学校全体を通して、良かった点、課題、要望等があればお書きください。(教務部、地域支援部、生徒指導部、進路指導部、保健部、自立活動部、事務部、その他)
- ・ 働き方改革を念頭に会議を精選したため、校務の効率が図られて良かった。
- ・ 教材等の購入など、事務部からはたびたび声をかけていただきありがたかった。何が必要か確認しながら購入してもらえてよかった。
- ・ 修学旅行は、遠足・校外学習の係に加え、それぞれのねらい、行き先、活動内容等を総合的に考えていくようにしていければよいのではないかと思います。
- ・ 来年度は通学生の人数、学級数が減少し、訪問教育生の人数が通学生とほぼ同じになると思われるので、通学生の職員は小中学部分けず、一緒に話し合い等持つようにし(主事は一人)、訪問教育にも主事的な役割のポストを設けると、より円滑な教育活動や連携が行えるのではないかと思います。
- ・ 必要な都度助力いただき助かっています。十分です。

### 2 個別の教育支援計画について

- ◇ 個別の教育支援計画や「個別の教育支援計画」作成マニュアル等について、意見や要望等をお書きください。
- ・ 今年度中に従来の個別の教育支援計画+教科を作成してみないといけませんね。
- ・ 支援計画の量が多すぎるのでは。”支援計画ファイル”とし、本来の「個別の教育支援計画」とする部分を抽出できないか。

### 3 教育課程について

- ◇ 教育課程について、御意見をお書きください。
- ・ 県外出張等で得られた他県の実践や最新の動向など、その都度教えていただきたいです。
- ・ カリキュラムマネジメントを充実させるために、教育課程定例反省会の在り方を検討できるといいと思う。
- ・ 令和2年度のもので2月中にある程度できるよう努めたい。
- ・ 学部の項の中に教育課程や実践したことなどを自由に話す機会があったら定期的に実践→改善できるかなと思う。
- ・ 来年度以降を見据えた改善がいたるところで見られる。
- ・ 各教科の取り扱いをどのようにするか。また、現行の音楽、体育が構造図どおり「教科別の指導」として行えているのかを再度見直す必要がある。

### 4 その他

- ◇ こんなところを改善したら・・・ こんな学習に取り組んだら・・・ こんな研究に取り組んだら・・・ etc
- ・ 急な行事等の追加が後半目立ったように感じました。全体に関わるものについては計画的に準備を進め、早めにお知らせいただくと助かります。特に学期末はご配慮願います。
- ・ 学校経営案のPDCAサイクルが機能するように、まずはプランとしての重点実践事項と具体的な実践項目を全職員が目的も含めて共有できるように説明してほしい。そうでなければ実践化も図られず、学校評価の結果も改善につながっていかない。
- ・ 担任に多くの校務分掌を充てるのは改善した方がよいと思う。来年度授業時数増の生徒も増えることもあるので、うまくできるだけ公平に振り分けられることを望みます。
- ・ 学期末はできるだけ放課後に会議や研修を入れないでほしいです。学級事務等が進まないのです。よろしく願います。
- ・ 座位保持装置や遊具等への移乗や使用方法など、再度安全面等について全員で確認する必要があると感じる。
- ・ 新学習指導要領への対応について、”どこを””誰が”するのか明確にできるとよりスムーズに進められるのではないのでしょうか。(教育課程、教育支援計画、個別の指導計画、指導案など)
- ・ 今年度、通常時の日直の続きで長期休業時の日直も置かれていたが、タイミングによっては長期休業時の当番日数に偏りが出てしまうこともあるので、通常時と長期休業時の日直については分けて設定した方がよいと思う。
- ・ 児童生徒数の減少により、やむを得ず行事等の規模を縮小したり回数を減らしたりしなければならない面があり、多様な経験、本物の雰囲気や味わう経験等が難しくなっている。その分、本校のよさや強みにも視点を当て、本校だからこそ充実できることは何かを見出して、子どもや保護者、職員も、「皆与志養護学校でよかった」と思える魅力ある元気ある学校づくりができたと思う。